

～ ゆうなんこども家庭支援センター『ポコ・ア・ポコ』～



子育てについての相談を受けたり、関係機関と連携し地域で安心して暮らすことができるようサポートする『ゆうなんこども家庭支援センター「ポコ・ア・ポコ」』。

『ポコ・ア・ポコ』とは、イタリア語で『少しずつ』という意味で、「ひとつずつ少しずつでもいいから、自分が本当になりたいと思う方向に向かうように一緒にサポートをしていけたら」との思いからこの名前になりました。

今回は、『ポコ・ア・ポコ』のスタッフとして活動されている、安村さんと内田さんにお話を聞きました。

＝ 居場所（憩いの場）・情報交換の場としても利用してほしい ＝

『ポコ・ア・ポコ』はどのような事業をしていますか？

田布施町と平生町の委託を受け、『子ども家庭総合支援拠点』として、妊産婦の方や18歳までの子ども、子育て家庭からの相談をお受けしています。子ども達が地域で健やかに成長するために、地域資源や福祉サービスを紹介し、関係機関と連携しながら、電話や来所、訪問などご相談に応じています。

相談は本人だけでなく、地域の皆さんからでもできますか？

ご本人だけでなく、「ちょっと心配なんですよ」といった周りの方々からの相談にも応じています。守秘義務がありますので、安心してご相談ください。4月1日に開設したので、皆さんへの周知はこれからですね。今は、関係機関と連携して活動をしています。例えば、保健師さんと一緒に、妊婦さんの家庭訪問を行い、出産前後での継続的な支援を実施しています。

このように、地域の子ども達も自分の住む町で安心して生活できるよう、関係機関と一緒に支援していきます。

思い切って相談できない人も中にはいると思われれます。どのタイミングで相談いただくことが1番ですか？

「気になることがあれば、とにかく相談する」ですね。地域にはいろいろな相談窓口があります。民生委員さんや家庭教育支援チームの皆さん、町民福祉課、『189』といった相談ダイヤル、そして『ポコ・ア・ポコ』があります。そういった相談窓口がたくさんあるものの、周知されていないのが現状だと思います。少しでも困ったな、気になるなと思ったら、お話いただくといいことが支援の第1歩になるのではないのでしょうか。

「自分でなんとかしない」とか「どこに言ったらいいかかわからない」とかいろいろあると思いますが、困っていることが気軽に相談できる場所や人がいるということは、とても大切だと思います。そんな場所に『ポコ・ア・ポコ』がなればいいなと思います。

『ポコ・ア・ポコ』には、子育て家庭の親子が集う場もあります。憩いの場という感じで、情報交換をされていますし、親

◀インタビューにご協力いただいた安村さん(右)と内田さん(左)



同士話をしていけると、「同じ悩みを抱えていることに気づき、いい方法が浮かんだ」なんてこともあります。子育てが初めての人は、いろいろなことが初めての経験です。互いの不安や悩みを話し、みんなで支えあって楽しく子育てができる場所になれば」と思っています。

『ポコ・ア・ポコ』の活動を今後どのように広めたいですか？

子ども家庭総合支援拠点として、関係機関と連携しながら、地域の子育てネットワークがしっかりと繋がるよう、活動していきたいと思えます。また、将来的には、『ポコ・ア・ポコ』が子ども達のちょっとした居場所になれるような活動をこれから展開していきたいと考えています。